

## 算数の授業の課題

- 1 問題提示の後に「さあやってみよう」と指示し、自力解決に時間をかけすぎる授業が見られます。
- 2 「グループで話し合ってください」だけで子どもに任せ、教師が指導しない授業が見られます。
- 3 「他の方法はありませんか？」とたくさん考えさせただけで終わる授業が見られます。

## 授業改善のための取組として（案）

### □ 解決の見通しをもたせましょう。

- ちょっと考えさせてから、困ったことや、前時との違いを明らかにする。
- 教科書や前時までのノートを活用し、どの既習事項が生かせそうかを考えさせる。
- 既習事項が十分に身に付いておらず、見通しがもてない場合は、改めて指導する。

### □ 何のためのグループ学習なのかを明確にしましょう。

- 目標や内容に照らして、グループ学習が必要かどうかを考える。
- 目的に応じてグループ編成を工夫する。
  - ・理解を深めたり、簡単で分かりやすい説明の仕方を考えたりする → 同じ考えの児童同士
  - ・正しい方法やよりよい方法を見つけ出す → 違う考えの児童同士
- 机間指導を通して話合いの方向を把握し、指示を出す。

### □ 本時のまとめにつながる発問をしましょう。

- 目標と照らして、必要な考えを意図的に取り上げる。
- 必要な考えが児童から出ない場合には教師から提示する。
- 話合いを焦点化する発問（共通点や相違点に気付かせる、一般化する）をしてまとめる。
  - ・共通点や相違点に気付かせる発問例  
「図で表わされていることを式で説明するとどうなりますか。」  
「これらの考えに共通する考えは何ですか。」  
「2つの式をみて、それぞれどのように考えたのか、違いを説明しましょう。」
  - ・一般化する発問例  
「他の場合も同じ考え方が使えますか。」  
「いつでも使える方法はどれですか。」  
「図や言葉の説明を式で表すとどうなりますか。」等

【コラム】 算数の授業の終末においては、次の位点を大切にしましょう。

- ・振り返りでは、本時の学習を振り返るだけでなく、自力解決の前に位数付けた見通しについて、児童自身が、見通した結果は正しかったのかや見通して方法は適切だったのかを振り返る場を位置付けること。
- ・振り返りの結果を踏まえ、児童が自分の進歩を確認し、学習内容を定着させるための練習の時間を確保すること。
- ・まとめでは、教科書を基に、算数の用語や記号を適切に用いること。